

ケアネットせとうち通信

安心して暮らせる地域を目指して

在宅医療多職種連携研修会を開催しました



【日 時】平成29年10月19日(木)

19:00～20:40

【演 題】認知症ケア～治療と生活支援をつなぐ～

【講 師】石津 秀樹 氏

(公益財団法人 慈圭会 慈圭病院 副院長)

(岡山県認知症疾患医療センター)

慈圭病院で認知症疾患を専門に診療されている石津秀樹先生をお迎えし、在宅医療多職種連携研修会を開催しました。

在宅療養を続けるために、医師の立場で寄り添ってこられた経験をもとに「医療・介護の専門職と地域の人が連携して出来る支援」についてお話しいただきました。

約140名の専門職のみなさんが来場され、石津先生のあたたかいメッセージに元気をいただき、認知症について考える機会となりました。



・「備え型支援」が大事！

・認知症は早期発見、早期対応が大切！

・ご本人の「～したい」という気持ちを大切に、多職種が連携して住み慣れた地域で生活が送れるように支援したいな

・症状ばかりにとらわれず、「その人」に向き合っていきたいな



身体が不自由になつたり認知症になつても地域で暮らしたいな



認知症対策への取組



～各団体の活動を紹介します～

「その人らしい暮らし」を支援しています ～瀬戸内市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会～



小規模多機能型居宅介護は、慣れ親しんだ地域で馴染みの人たちと関わりをもちながら、住み慣れた自宅で暮らし続けたいという利用者の思いが実現できるように、「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを柔軟に組み合わせ、自宅での暮らしを支える地域密着型のサービスです。

瀬戸内市の小規模多機能型居宅介護事業所は、各事業所の特性を生かした、地域との関係づくりに取り組んでおり、集える場としてのカフェづくりに携わったり、地域での高齢者徘徊模擬訓練、認知症を題材とした講演会の開催等を行っています。

瀬戸内市小規模多機能連絡会は毎月会合を開いており、事業所間の情報共有、連携強化をはじめ、地域住民や、行政、医療機関とも連携を図りながら、「その人らしい暮らし」の実現を目指して活動しています。



認知症カフェをオープンしています ～瀬戸内市地域包括支援センター～



**つくし隊 (カフェスタッフ)
の皆さん ※募集中です!**



平成29年4月、「特別養護老人ホームせとうち」の地域交流スペースをお借りして、地域の方、認知症の当事者やご家族、専門職など、誰もがゆったりと過ごせる場所として『喫茶せとうち』が誕生しました。

現在は3ヶ月に1回程度開催しており、茶話会の他にも講師をお呼びして、認知症についての講話やアコーディオン演奏をしていただきました。

今後も認知症カフェを通して、少しでもいろんな方がつながり、住みやすい地域づくりのお手伝いが出来ればよいなと思っております。

「認知症にやさしい本棚」をつくりました ～瀬戸内市立図書館～



図書館では、市民図書館、長船図書館、牛窓図書館に「認知症にやさしい本棚」を設けました。本のカテゴリーを「認知症とは?」、「本人と家族のために」、「認知症の治療と介護」、「認知症を防ぐ」の4つに分け、展示や貸出を行っています。

また、「テレビ回想法」など、DVD資料の貸出もしています。懐かしい映像を見て、昔の記憶が呼び覚まされることで、認知症予防の効果があるとされています。

みなさんもお近くの図書館で、「認知症にやさしい本棚」をぜひ、ご利用ください。



認知症が心配なときは、「かかりつけ医」にご相談を ～邑久医師会～



超高齢社会を迎え、認知症の人の増加が著明となり、その対策が必要とされています。

医療施策の一つとして、かかりつけ医に求められているものは、

- ① 認知症の人と、その家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援するための知識と方法を習得する
- ② 認知症の早期発見・早期対応の重要性と、かかりつけ医の果たし得る役割を理解する
- ③ 認知症の診断・治療・ケア・連携に関する基本的な知識を習得する

等があります。それらの習得を目的として、平成 18 年よりかかりつけ医認知症対応力向上研修が始まり、現在までに多くの医師が受講しています。

瀬戸内市では、本年度より認知症初期集中支援チームが設置され、医療・介護の専門職と、認知症サポート医でチームを作り、認知症が疑われる人の医療・介護サービス利用まで支援する体制を整えました。

認知症サポート医とは、

- ① 認知症の人の医療・介護に関わる専門職のサポート
- ② 地域包括支援センターを中心とした多職種連携づくり
- ③ かかりつけ医認知症対応力向上研修の講師や住民等への啓発

等の役割を期待される医師のことで、専門医・かかりつけ医を問わず、

平成 17 年に始まった認知症サポート医養成研修を受講した医師をさします。邑久医師会内でも 3 名が受講し、その活躍が期待されているところです。

最近では、認知症の診断・治療も比較的スムーズに進み、介護サービスの利用など、認知症の人の生活維持も可能となりつつあると感じる一方で、医療・介護サービスを受けていない認知症の疑われる人も多く、その人々の支援が問題となっています。地域包括ケアの観点から、認知症の人を含む高齢者を支える助け合いのネットワークづくりの一環として、多職種連携の研修などが行われています。

認知症が心配される人が身近にいれば、まずは地域包括支援センターやトータルサポートセンター、かかりつけ医に相談してみましょう。



認知症による高齢者の徘徊対策に取り組んでいます ～瀬戸内市保健福祉部 いきいき長寿課～



平成 27 年度より「瀬戸内市ひとり歩き高齢者見守り協力体制」を設置し、認知症による徘徊行動が見られる高齢者が行方不明になった時の支援に取り組んでいます。この事業では、徘徊する可能性がある高齢者の個人情報市へ事前登録してもらい、その情報を警察等の関係機関で共有しておくことで、行方不明時の対応が円滑に行われることを目的としています。

また、市メールマガジンを通じて行方不明者の発見協力の呼びかけを行うことができるため、徘徊行動で本人の身の安全が心配される場合は、事前登録を活用していただきたいと思います。

今年度はそれに加え、高齢者徘徊対策促進事業として認知症等により徘徊行動が見られる在宅の高齢者を介護する方や家族に対して、QRコード付きシールを交付し、高齢者が徘徊した時に早期保護につながる仕組みづくりを行います。

運用を開始する時は、市の広報紙やホームページにおいて周知しますので、多くの方に登録していただき、早期保護につながるように活用していただけたらと思います。



認知症初期集中支援チームによるサポートを始めました ～瀬戸内市保健福祉部 トータルサポートセンター～

認知症は**早期発見**
早期対応が大切です



認知症は、誰もがかかりうる・かかわる疾患と言われています。できるだけ住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族を早期に支援する「認知症初期集中支援チーム」をトータルサポートセンターに設置しました。

まずは瀬戸内市地域包括支援センター認知症相談窓口にご相談ください (電話：0869-24-0001 ファックス：0869-24-0061)

支援チームは、「認知症相談窓口」の瀬戸内市地域包括支援センターの認知症地域支援推進員などから連絡を受けて、かかりつけ医や専門医などと連携しながら、医療や介護保険サービスなど適切な支援につないでいきます。

認知症の症状でお困りになったら、早めに「認知症相談窓口」に相談してください。認知症の予防や、日常生活の支援などについて一緒に考えていきますので、まずはご相談ください。

支援チームの活動内容

認知症またはその疑いのある人やその家族の自宅を訪問して、常日頃の困りごとをお聞きし、必要に応じて認知症に関する情報の提供や医療機関の受診、介護保険サービスの説明など、初期の支援を多方面から集中して行い、自宅での自立した生活を支援します。

チーム員は、認知症サポート医である医師と保健師です。ご家族や地域包括支援センターなどの支援者と連携して支援していきます。

対 象

市内の自宅で生活している 40 歳以上で、ご家族の相談などにより認知症が疑われる人や認知症の人で、次のいずれかに該当する人です。

- ・医療及び介護保険サービスを受けていない、または中断している
- ・医療または介護保険サービスを受けているが、適切なサービスに結びついていない
- ・認知症の症状が著しく、ご家族など支援者が対応に困っている



トータルサポートセンター（ケアネットせとうち事務局）のご案内

医療・福祉・保健等に関する総合的な相談を受け、多職種連携で支援を行います。相談は無料です。

【相談対応職員】

保健師

【相談時間】

午前8時30分～午後5時15分

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

【所在地】

岡山県瀬戸内市邑久町山田庄845番地1

(瀬戸内市民病院1階 玄関南側)

【電話番号】

(0869) 22-3800

【ファックス番号】

(0869) 22-3801

【ホームページ】

医療・介護にかかる地域資源の情報などを掲載しています。と検索すると、閲覧することができます。



ケアネットせとうち

